



地域医療連携室だより

Vol. 60

平成 26 年 6 月 1 日発行

発行元 大津市民病院地域医療連携室

住所 〒520-0804

滋賀県大津市本宮二丁目 9 番 9 号

TEL 077-526-8192

<http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/>

<医療技術局放射線部技師長の就任にあたり>

放射線部 技師長 谷口 勝美



医療技術局放射線部技師長の任務を拝命しました谷口勝美です。これまで4年間前任の技師長の下で副技師長として任務を遂行してまいりましたが、各事務管理等々かなりの仕事内容があることを日々ひしひしと痛感している毎日です。そのような日々ですが、今以上に「明るく活気があり、生き生き働ける職場作り」に努めていきたいと思っています。

働く職員が生き生きしていることで、患者さんに少しでも良い環境を提供していけるようにするのも私の責務だと考えています。

平成26年1月には、頭腹部用血管造影装置（シーメンス製 Artis zee biplane）が導入され、現在検査はもちろん治療にとフル稼動しております。3D画像が瞬時に作成されあらゆる角度での視野観察が可能となるため各種治療に役立っています。

また、平成27年春には、現在工事が着々と進められている放射線治療装置（Elekta 社製 Elekta Synergy）が導入されます。X線エネルギーが3MV・6MV・10MVの3種類が可能で電子エネルギーは4～5種類の照射が使用可能となり、定位放射線治療・広範囲の体幹部定位放射線治療をはじめ将来的には強度変調放射線治療・画像誘導放射線治療も可能です。

稼動までには、「放射線治療とは」などと題し研修会を開催していく予定です。病院職員はもとより諸先生方にも是非ご参加をいただければと思います。

また、放射線被ばく等で疑問をお持ちの場合は、当放射線部の専門技師がご理解いただけるように説明させていただきますので放射線部までご連絡ください。

放射線部として、専門職として地域医療に微力ながらも貢献できればと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻いただきますようよろしくお願いいたします。

大津市民病院9階大会議室
17時30分～18時30分
受講料：無料
対象：医療従事者

大津市民病院大学・
公開講座

7月4日（金）

京都大学医学部放射線腫瘍学・
画像応用治療学

准教授 溝脇 尚志 先生

「放射線治療における最近の進歩」

7月11日（金）

滋賀医科大学医学部附属病院 看護部
がん放射線療法看護認定看護師

JSIR・CVIT 合同認定インターベンション
エキスパートナース

小崎 信子先生

「がん患者さまにとっての放射線治療」

<リハビリテーション部技師長就任にあたり>

リハビリテーション部 技師長 もとしろみず 本白水 博



平成26年4月より技師長に就任いたしました本白水でございます。
現在の取り組みや今後の課題、役割等についてご報告させていただきます。

スタッフは理学療法士15名、作業療法士5名、言語聴覚士2名、助手2名、受付1名で構成され急性期リハビリテーション(以下リハと略す)を中心としながら、回復期リハ(35床)、外来での維持期リハを提供しています。施設基準では、脳血管リハI・運動器リハI・心臓リハIを取得し、本年度はがんリハIの取得に向けた準備をしています。1日の患者数は、入院約240名、外来約30名、入院科別では脳神経外科25%(多くは脊椎外科)、神経内科25%、整形外科20%、循環器(心疾患)6%、その他24%(廃用症候群)となっています。対象疾患は脳血管疾患、運動器疾患、脊椎(脊髄)疾患を中心に発症後または手術後早期からの離床に向けた取り組みを行い、平成24年9月より心臓リハも積極的に実施しています。また、緩和ケア病棟での終末期リハ、神経難病病棟での神経難病、発達段階の運動障害に対する小児リハ、回復期リハ病棟における退院前在宅訪問による住環境整備や福祉用具選定までの包括的アプローチも行っています。

最近の傾向としては、リハ対象者の多くが高齢者で占められているのが現状です。しかも一昔前では70歳代であった対象者が、最近では85歳以上の高齢者に対応することが多くなっています。発熱や誤嚥性肺炎、脱水症状等により入院した虚弱状態にある高齢者は、環境の変化、ストレス、治療による安静により夜間せん妄や昼夜逆転、食欲低下も重なり、廃用症状が急速に進行し歩けなくなるケースが増加しています。一度廃用症状(虚弱状態)が進行してしまいますとリハによっても改善することは困難となり、廃用症状が悪化する前からの予防リハ(疾病の治療過程に起こる可能性のある廃用状態を予測し、あらかじめ予防するという役割)をいかに進めるかが今後の課題となっています。現状では、入院科別での「その他24%」のほとんどが高齢者の廃用症候群であり、言語聴覚士の業務も失語症の訓練から高齢者の摂食嚥下訓練へと業務が移行しています。

世界でも類を見ない超高齢社会を迎える中、これまでの病気か健康かの臓器別治療医学モデルから、虚弱状態で認知症もある高齢者に対する新たな加齢状態に対応する医学モデルの構築が必要であり、高齢者全体を見ることのできる生活モデル(高齢者リハモデル)への転換が急がれます。これからはリハが関わることにより入院期間が短縮したか、ご自宅への復帰が増加したか、どれだけ廃用予防に貢献したか等のアウトカムが求められる時代となります。リハビリテーション部が一体となり自己研鑽に努めて参りますので、何卒ご指導をよろしくお願いいたします。

総合内科症例検討会を開催します

来る6月12日(木)に第16回総合内科症例検討会を行います。

公開講座としておりますので、院外からも多数のご参加をお待ちしています。

日時：平成26年6月12日(木)17時30分～

会場：大津市民病院9階A・B会議室

テーマ：「1週間前から出現した全身倦怠感を主訴に初診し、酸素飽和度の低下を指摘された高齢女性」

症例提示：滝本とも子医師(内科)

平成26年度

講座のご案内

大津市民病院大学 健康講座



時 間 : 14時00分～15時00分
場 所 : 大津市民病院9階大会議室
受 講 料 : 無料

開催日	テーマ	講師
6月19日(木)	貧血のおはなし	中尾 光成 (内科診療部長・血液部門)
7月1日(火)	脳卒中 ～こんなときはどうしたらよいか?～	廣田 伸之 (神経内科診療部長)
7月29日(火)	頻尿と泌尿器科のがんについて	増井 仁彦 (泌尿器科医長)
8月21日(木)	消化器がんとうまくつきあう	若林 直樹 (消化器内科診療部長)
9月9日(火)	心療内科の実際	前林 佳朗 (精神・心療内科診療部長)
10月6日(月)	ヘルペスってどんな病気?	末広 晃宏 (皮膚科診療部長)
10月21日(火)	認知症にならないヒケツ	山田 幸子 (認知症看護認定看護師)

～多数の方のご参加をお待ちしております。～

看護局 公開講座

時 間 : 17時30分～19時00分
場 所 : 大津市民病院9階大会議室
受 講 料 : 無料

日時	テーマ	講師	研修目標
10月24日(金)	摂食・嚥下障害のある患者の看護 1	摂食・嚥下障害看護 認定看護師 西 真由美	摂食・嚥下のプロセスとその障害 について理解する。
11月20日(木)	摂食・嚥下障害のある患者の看護 2	摂食・嚥下障害看護 認定看護師 西 真由美	摂食嚥下訓練の実際を学び看護実 践に活かす。
11月28日(金)	終末期患者の看護	がん看護専門看護師 杉江 礼子	終末期がん患者の特徴を理解し、 臨死期における患者、家族への関 わりにおいて大切な要素を学ぶ。

～研修会の期日が近づきましたらあらためて申し込みのご案内をいたします。～